

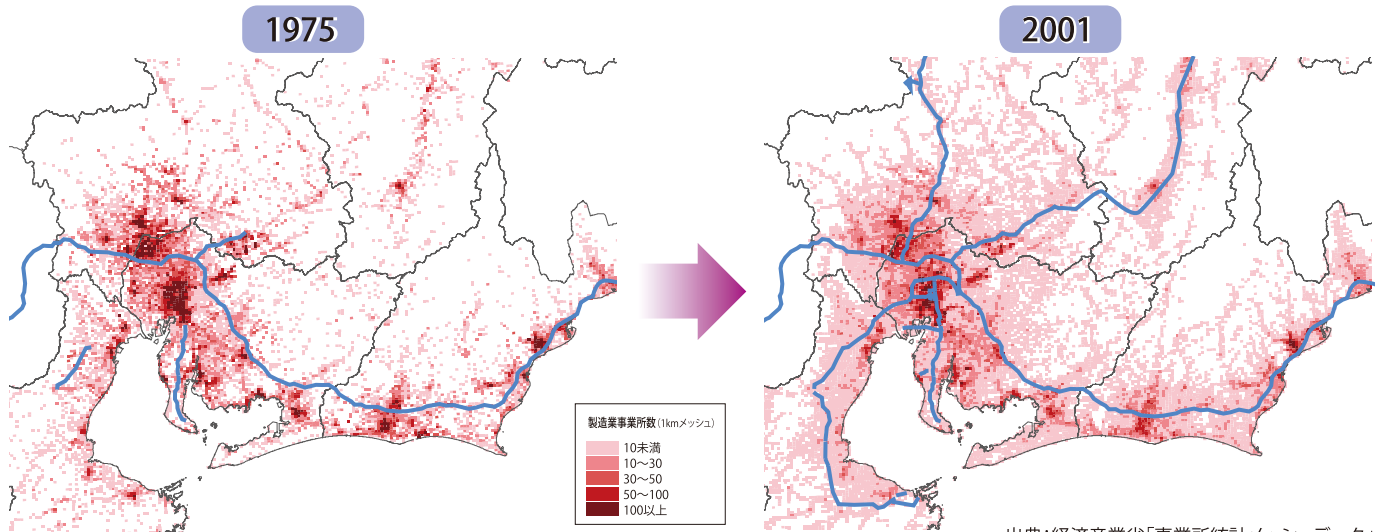
2 これまでの高速道路ネットワークと企業活動

高速道路ネットワークの整備が企業の立地エリアを拡大し、またその生産性を向上させています。

高速道路ネットワークの変遷と企業立地

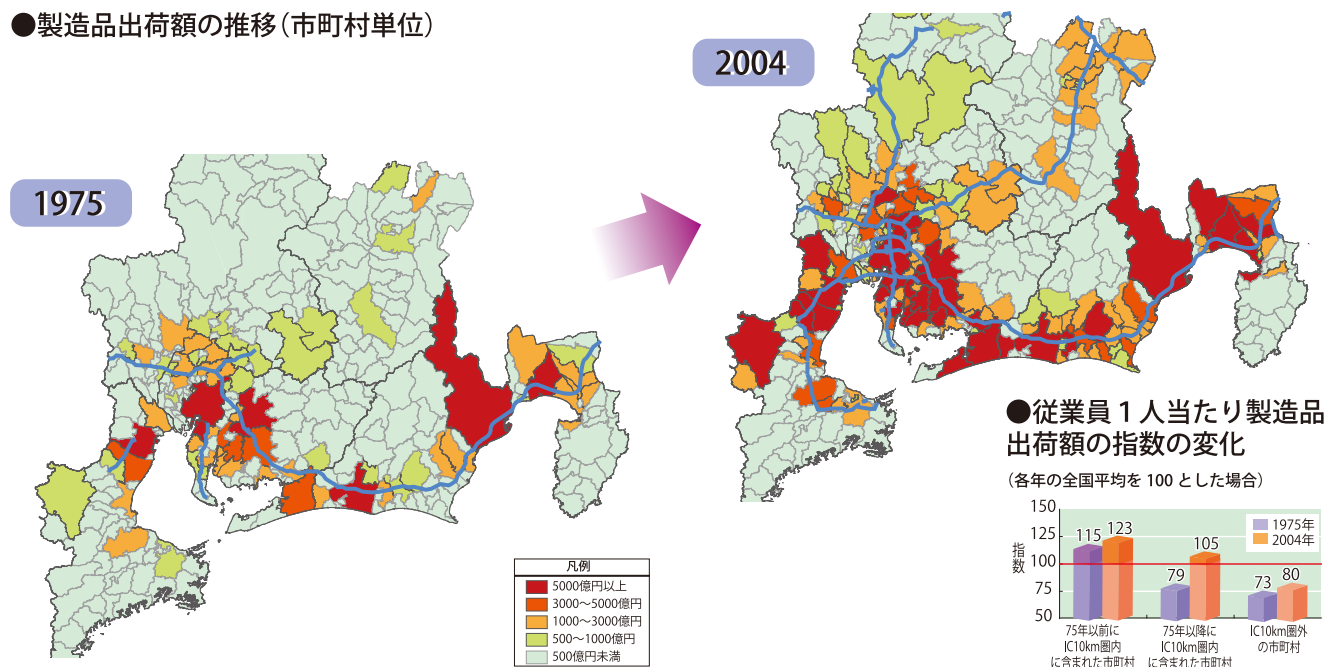
- 1965年の名神高速道路全線開通を皮切りに、中部圏の高速道路整備は順次東名高速道路や東名阪自動車道、中央自動車道など、名古屋を中心として放射状に多方面に進められました。
- それと共に、企業の立地エリアも拡大を続けています。

● 製造業事業所数の推移 (1km メッシュ単位)



- 高速道路ネットワークの整備と共に、その沿線地域での製造品出荷額が高くなっています。高速道路の整備が沿線に立地する工場の生産性をより向上させることを示しています。
- 中部圏の市町村の製造業従業員1人当たり出荷額を、ICからの距離別に見ると、1975年以降にIC10km圏に含まれた市町村の伸びが大きく、圏外の市町村では伸びが小さくなっています。

● 製造品出荷額の推移 (市町村単位)



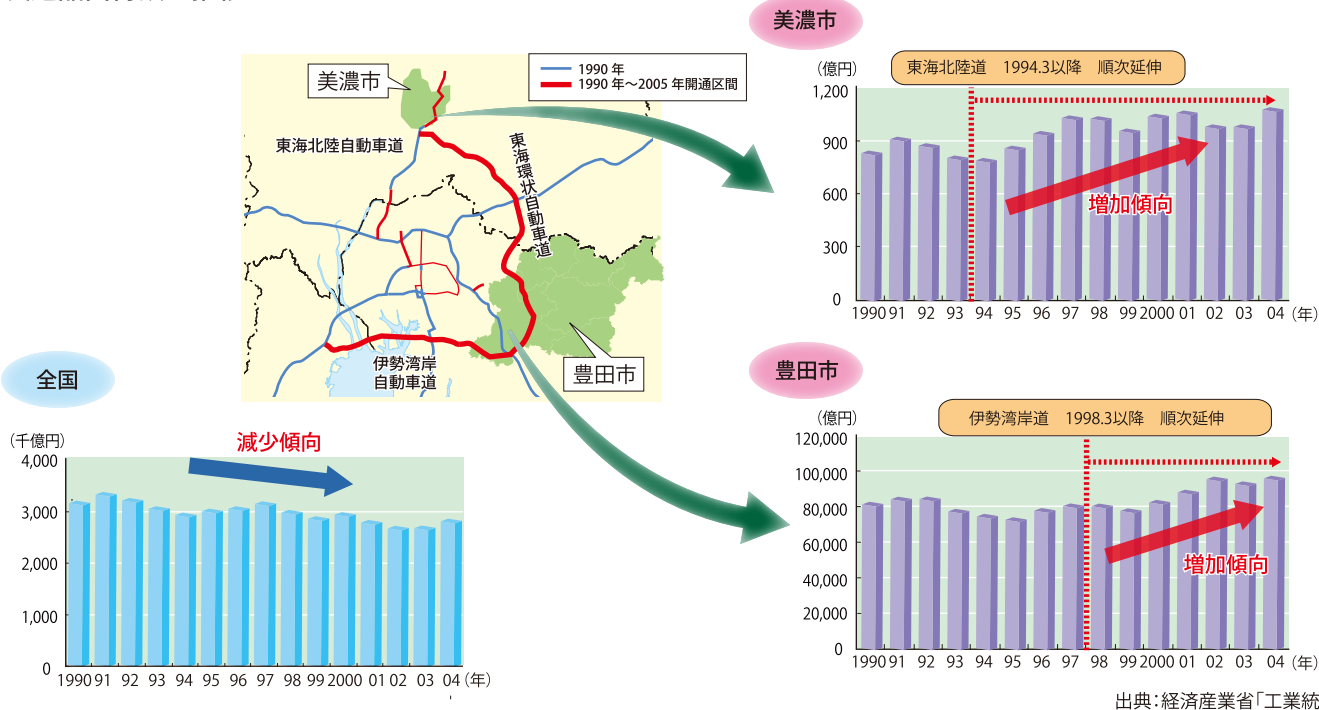
出典：経済産業省「工業統計」

注) 対象IC：高規格幹線道路及び地域高規格道路のIC対象エリア：長野、岐阜、静岡、愛知、三重の5県

高速道路ネットワークと市町村別製造品出荷額

●近年、全国的に製造品出荷額は減少傾向となっていますが、東海北陸自動車道や伊勢湾岸自動車道など新たに整備された高速道路沿線では、増加傾向が見られます。

●製造品出荷額の推移

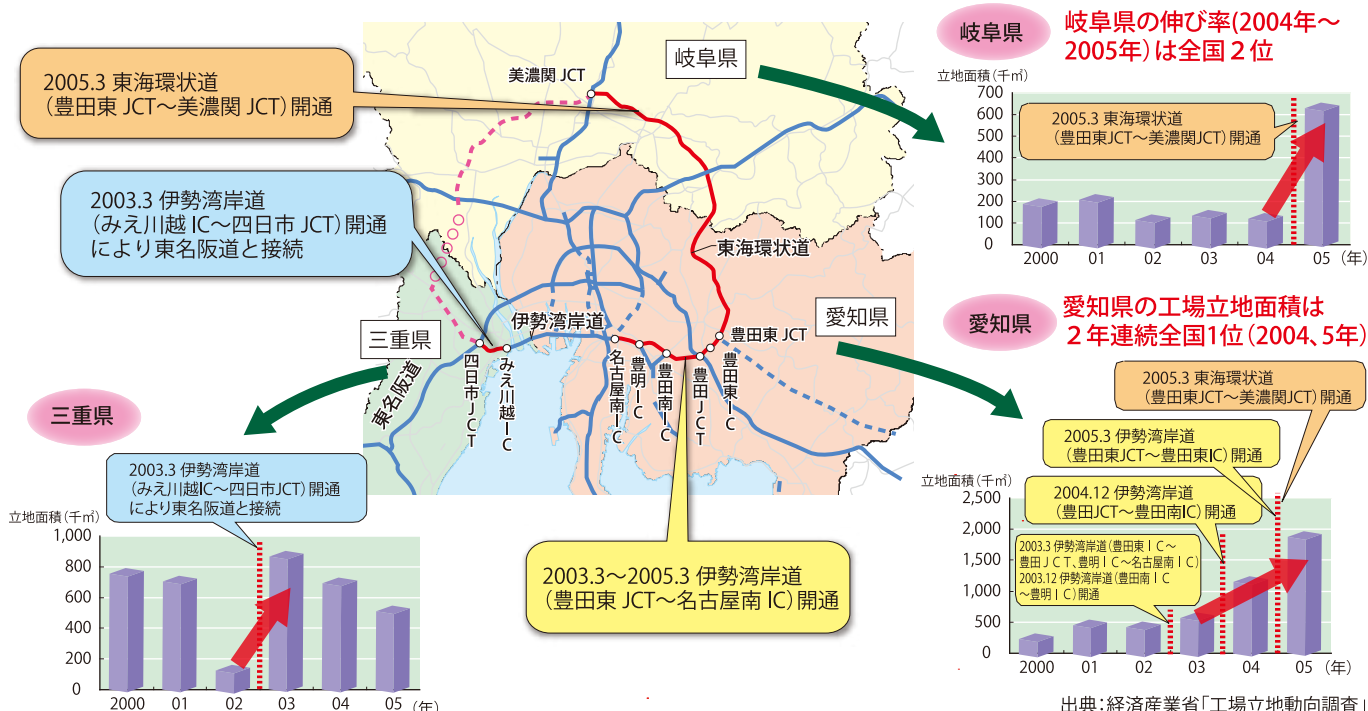


出典：経済産業省「工業統計」

高速道路整備と工場の立地

●近年の岐阜県、愛知県、三重県における新設工場の立地面積は、東海環状自動車道や伊勢湾岸自動車道などの開通に伴って飛躍的に増加しています。

●各県の新設工場立地面積の推移と主な高速道路開通時期



出典：経済産業省「工場立地動向調査」